

北九州市立河内自転車貸出し施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月11日(金) 10:30~12:30
- 2 場 所 北九州市役所10階101会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 植田構成員、齊藤構成員、長構成員、寺町構成員
(事務局) 道路維持課長、自転車道担当係長、担当職員

4 会議内容

○構成員の互選により、座長を選出。

○検討会の進行方法等について事務局から説明。

○応募団体(株式会社ニップス)に、提案内容について質疑応答を実施。

(構成員)

これまでのこの事業に類する事業のご経験を伺いたい。提案資料によると福岡市や広島市の放置自転車対策を受託されているが、そこで具体的にどのような業務をされているのか。また、指定管理業務についてこれまでご経験があるかというのを教えていただきたい。

(応募団体)

1つ目の質問の福岡市中央区の放置自転車対策について大きく分けて4つの業務をさせていただいている。1つ目が、自転車放置禁止区域において、日中、街頭指導をさせていただいている。状況によっては、注意札を貼らせていただいている。2つ目が、実際に放置されている自転車を探して、警告札を貼っている。福岡市では30分たったら撤去するため、確認をする人がいる。3つ目が、撤去した自転車を、トラックに積んで保管所に移動させている。最後に保管所の方で、システムに登録をしたり、返還の方に対応したり、保管期限が過ぎた自転車に対して、区の方の立ち会いのもと一部売却をさせていただいている。最終的に売却できなかった自転車の廃棄に立ち会っている。

広島市の放置自転車対策については、福岡市の4つの業務のうちの1つ、放置された自転車を撤去する業務以外の業務をしている。

2つ目の質問の指定管理業務について、弊社自体まだ実績はない。

(構成員)

これまで行ったことがない、使ったことがない、知らない人たちにSNS以外に、どのような方法で情報を届けていこうとしているのか、具体的なものがあればもっと詳しくお聞

きしたい。また、河内エリアの地域の人たちと連携で具体的に考えているものがあれば教えていただきたい。

(応募団体)

1つ目のご質問について、公式LINEアカウントの代理店をやっており、他の自治体で運用をさせていただいている。また、地域の商店街の方々や地域で事業をされている方、NPO等にご意見を頂戴しながら、発信方法を考え、実行したいと考えている。

2つ目の魅力の部分についても、一番ターゲットの部分だと思う家族層に、LINEを活用して定期的な情報発信をやっていきたいと考えている。具体的にこのお店と何かしようとか、個々の団体と何かしようといったところは現状ない。ただ、弊社に流通小売店のお客様が多数いるため、実際に声掛けをして、イベント等についてお話をしていきたい。

(構成員)

人員配置計画の責任者は1人を充当するのでしょうか。

(応募団体)

基本1人で他の業務と兼任で試算をしている。この業務だけに特化した人員は、人件費が捻出できない状況だったため、北九州市の事務所の中から兼任者を選び対応していく。

(構成員)

1週間の勤務時間が40時間ですが、8時間かける5日間のイメージですか。

(応募団体)

週の就業時間に間違いがあり、もっと短くなる。

(構成員)

スタッフは何人で回すのか。

(応募団体)

4人から5人程度で回していきたい。土日祝がメインで、休み期間は平日も含めて考えている。

(構成員)

時給単価はどうなるのか。

(応募団体)

1000 円ちょっとの時間給を試算している。1000 円以上と最低賃金で募集したときに接客に違いがある。収支のところを見ていただいたらわかる通り、赤字になっている状況である。

(構成員)

年々人件費は上昇しており、年間の試算で数字の間違いがあったため、人員配置が気になる。

(構成員)

ご提案いただいた指定管理料について、物価の上昇を考えたときに、指定管理料が一定でも持続可能なのか。

(応募団体)

この事業単体で見たときに赤字にはなっているが、私がいる部署の中で、福岡市や広島市を含めトータルの事業として考えたときに、プラスの収支となっている。現在、指定管理の実績がないため、実際に1つやりたいという思いがある。

(構成員)

外から見てこの施設の一番大きな課題はどこだと考えるか。

(応募団体)

情報発信だと思う。認知はあると思っている。ただ、なぜ使わないのか、という部分がボトルネックだと考える。八幡東区、八幡西区、小倉北区のみならず、北九州市やその周辺の方々に秋の紅葉を見に来ていただく際、自転車を使えることを上手く発信することによって、魅力ある場所を作っていけると考える。地域の方々や地元の企業がどう考えているのかわかってない状況であるため、ヒアリング等を実施していきたいと考えている。

○応募団体（河内さくら公園愛護会）に、提案内容について質疑応答を実施。

(構成員)

収支計画書について、収入見込の利用料と支出見積の自転車貸出し事業費は対応すると思っよるしいか。

(応募団体)

はい。

(構成員)

無人貸し出しができる仕組みについて、こういった形で無人貸し出しが可能になるのか教えていただきたい。

(応募団体)

自転車に鍵をつける等、何らかの形で今考えている。

(構成員)

ボランティアの活用について、ボランティア頼みだとやっぱりどうしても長続きが難しくなってくると考えるが問題ないのか。

(応募団体)

全く問題ない。ボランティアはあくまで付加価値として活用していく。自主事業のお手伝いであるため、ボランティアがいないと回らないという仕組みではない。もうすでに 20 人程度、地域の働きたい方がいるため、厳選して入れていこうと考えている。

(構成員)

ボランティア頼みではないのか。

(応募団体)

大丈夫である。すでに 10 人はおり、少しの時間で入っていただこうと考えている。人が余っているときは少なくして、人がいるときにはすぐ駆けつけられる仕組みを考えている。

(構成員)

この提案書の事業計画の中に、更衣室やシャワー設備の設置、貸出しシステムを構築するとあるが、支出でどのように計上されているのか。

(応募団体)

支出の中には入っていない。基本的にはそんなに多くの予算をかける形では考えておらず、徐々に毎年できることからやっっていこうと考えている。

(構成員)

利用者数の目標について、この数値を実現するために、どのような施策を行うと一番効果的であるか考えるか。

(応募団体)

近隣への呼びかけ、イベントの活用、キャリア教育研究会 3000 人からの広報、まわっている小中高に対してのアクセスができるため、人数の確保は大丈夫だと考える。観光という視点も入れていき、河内にどんどん来てもらう仕組みも考えている。

(構成員)

広報で学校を回っているとのことだが、中学校も含まれるか。

(応募団体)

小中学校が基本で、高校が一部。年間 250 校まわっている。学校の先生にも提案をしていきたい。すぐにできることではないと思うが 5 年かけて作っていきたい。10 年の指定管理を目指している。

(構成員)

自転車の貸し出し業務の実績が無い中で、今回この事業にエントリーされた最大の理由は何か。

(応募団体)

河内自体の可能性はもっとあるが活用されていないため、河内自転車貸出し施設を起点にして、もっと活性化できるのではないか。たくさんの人に来ていただいて、河内の良さを知っていただく。そこがやりたいところである。

(構成員)

特に河内で行いたいオリジナルの企画、イベントを教えていただきたい。

(応募団体)

貸し出しでは、自転車を使ってオリエンテーリングの形で回っていくことを一番大きな基盤に置いている。3000 人のメンバーの中にいる、様々な分野の専門の方とツアーを一緒にやりながら、自転車で回っていくことをやりたい。

(構成員)

利用者増に向け、具体的なターゲットやエリアについて見込みはどのように考えているか。

(応募団体)

八幡東区、北九州市、市政だよりに出しているイベント、市民センター等に対して毎月広報を出したいと考えている。放課後デイサービスを行っているメンバーがいるため、そうい

った施設と連携していく。

(構成員)

アクセシビリティを考えると、子供だけではなかなか行けないと思ったが、学童の団体に連れてくるみたいな移動方法に見込みがあるのではないかと考えた。

(応募団体)

西鉄バスが上重田まで来ているため、連携出来たらいいと考えている。広報的に、現在の自転車は非常にかっこよくなく、危険な自転車もおそらく出てくると考えるため、入れ替えていきながら、新しい自転車は高付加価値のものを入れるとよいのではないかと考えた。

(構成員)

ご提案いただいた指定管理料はだんだん減少しているが、一方で世の中は、物価高・人件費増となっている。そのギャップはどのように考えているのか。

(応募団体)

必要な経費で上がっていくものはあると思うが、もともとが小さいものなので、全体の事業からすればそこまでインパクトが無いと考えている。

(構成員)

地元から見た河内自転車貸出し施設の一番大きな課題は何だと考えるか。

(応募団体)

シルバー人材センターの方の雇用という面ではよかったのかもしれないが、市の施設として市民に対し、最大限、役に立つような取組をこれまでしてきたかが課題と考えている。

○応募団体（一般社団法人まちはチームだ）に、提案内容について質疑応答を実施。

(構成員)

社会貢献・地域貢献の自主事業について、河内自転車貸出し施設ではなく自転車駐車場の内容が記載されているが、河内自転車貸出し施設でも同じ内容を考えているのか。また、自主事業の収入について、収支計画書では具体的にどのような形で反映されるのか。

(応募団体)

設置する自動販売機は、他と同じで考えている。入口付近に自動販売機1台もしくは2台の設置を考えている。収入の内訳は1台当たり、設置費・電気代を含み月3万円を見込んでいます。

でいる。収支計画書の方には河内自転車貸出し施設に合わせた正しい金額を記載している。

(構成員)

1台当たりの売上を自転車駐車場と同じで設定しているが、来場する人数や頻度を考えたときに、マーケティングをもう少しシビアにしたほうがいいのではないか。

(応募団体)

3万円という設定はかなり低く見積もった金額である。季節的なもの等をもう少し踏まえることで、金額は変わると思う。ただし、この収入の増加分を運営経費には組み込んでいない。必要に応じて、市が返還を求めれば返還することをベースに考えているため、あまり、あてにしていないというのが実情である。人間には人間的な仕事をしていただき、機械には機械的な仕事をさせるためにはどうするかというテーマで出している。

(構成員)

現地における人としての対応は、具体的に何を想定しているのか。

(応募団体)

貸し借りにおける事務的な作業に関しては、自動化を中心にやりたいと思っている。一方、お客様のお世話やご案内、河内のエリア説明といった、楽しんでいただくところに配置すると良いと考えている。

(構成員)

市民の雇用拡大において、シルバー人材センターを活用するとあるが、管理員配置計画との関係性を教えていただきたい。

(応募団体)

最初の1年目は現在の方々にお願いできればよいと考えており、引継ぎもかねて必要だと考えている。現場に慣れた方、管理に慣れた方がいらっしゃると思うので、現在やられている方にお声がけして、チームとなってできればいいなと考えている。

(構成員)

「まちはチームだ」と「シルバー人材センター」の連携プレーになり、難しい面や大変なところもあるのかなと想像するが、どのように考えているのか。

(応募団体)

ここは組織論の中で非常に重要なポイントだと思っている。目線が違うので、そのことに

についてのコミュニケーションの会議が重要だと思う。また、共通言語がまだない間柄においては、一方的な議論になりがちなので、我々が持っている「学ぶコンテンツ」等を活用しながらコミュニケーションをとっていききたい。

(構成員)

人員計画について、最初は引継ぎも兼ねてシルバー人材センターの方をお願いをするが、少しずつ入れ替えをされていくという意味合いでよろしいか。

(応募団体)

その通り。機械が入ってくるので、勤務時間が少し変わってくると思う。繁忙期は全部機械化するのはちょっと難しいと思うが、閑散期からチャレンジしていけるのではないかと思っている。

(構成員)

これまでの経験を河内で活かすために、プログラム等考えられているものがあれば教えていただきたい。

(応募団体)

河内のエリアは観光的に面白い場所なので、まずこれをしっかりと打ち出していきたいと思っている。秋が観光客の方も訪れやすいと思うので、イベントを積極的にできたら良いと思う。地域の方とコミュニケーションを取りながら、お子さんメインのイベントや、親子でできるサイクリングイベント等を計画していきたいなと思っている。また、河内藤園等から来られる動線もあるため、ここに軸を置き、営業対応をしっかりとしていくことで、河内藤園とセットで見ってもらう等、チャレンジしていきたい。

(構成員)

リサイクル自転車の貸し出しサービスについて、これは誰向けに貸し出しを行い、どこで使ってもらうために貸し出しをするのかお聞きしたい。もう1つ、外から見てこの施設の今一番大きな課題だと感じていることを教えていただきたい。

(応募団体)

SDGsの関係がベースにあり、できるだけ今の施設で使えるものを使えないかということである。

課題は認知度である。エンタメの可能性を持った場所という認知が、あまり聞こえてこないと思っており、SNS等をずっと打ち出していく必要がある。

若い方や家族連れに知っていただくことが一番課題だと思っている。

(構成員)

レンタルオプションの拡充は提案事業として考えているのか、それとも自主事業として考えているのか。

(応募団体)

指定管理業務の中で、今回の目的に資するものに関しては、自主事業との区分を議論しないといけないと思っている。

○構成員がヒアリングや提案書、応募団体に関する書類を総合的に検討して採点した結果を集計。各構成員の採点結果を共有し意見交換を行った。

(構成員)

暫定的な集計結果に対して意見はありますか。

(構成員)

なし。

○評価レベルについて

最終の評価レベルは、株式会社ニップスが74点、河内さくら公園愛護会が80点、一般社団法人まちはチームだは地元団体優遇措置として5点を加えて76点。なお、河内さくら公園愛護会は市内団体であるという資料の提出がなかったため、地元団体優遇措置としての加点はしない。これらの点数をもって、本検討会の得点とする。

評価結果を踏まえ総合的に検討した結果、合計得点で80点の河内さくら公園愛護会が最高点となったことから、検討会としては、この河内さくら公園愛護会が指定管理者候補としてふさわしいと判断する。

なお、検討会の付帯意見として、「指定管理業務を引き受けて運営する際、責任を持って運営する組織の仕組みや役割分担等、適正に管理運営する体制を整えていただきたい。」を付することとする。